



香りア・ラ・カルト



の香りを競い合ったりしました。練香の「梅花」もその一つ。ただこれは、梅の花から作られたものではなく、沈香に占唐、甘松、丁香、麝香、薫陸などを加えた合香で、梅の花のイメージで作られたものの、実際の香りとは少々違っていたようです。梅が現在のようになつたのは、思ったより遅く十七世紀に入ってから。今では品種も増え、「花梅」で三百種以上、「実梅」で約百種に及んでいます。

余談になりますが、梅栄堂のお線香「好文木」「古香」「残香飛」は、梅の木と深いかわりがあります。「好文木」は晋の武帝が学問に親しむと花が咲き、怠ると花が咲かなかつたことから梅の木を「好文木」と名付けたことに由来しています。また、「古香」は梅そのものを指し、「残香飛」は明の詩人、高敏の詠んだ詩の中にある。梅林に続く沢にある飛び石のこと、早春の頃、この石を渡るとほのかに梅の香りが漂ってきたといわれています。今春はさわやかな梅の香りと共に「残香飛」の新しい香りも、是非お試し下さい。

## 梅栄堂 香りの文献

# 梅

万葉人も平安人も、  
こよなく愛した花

梅は中国の原産。古代殷王朝(紀元前十一〜十六世紀頃)の遺跡で発掘された銅器内から梅の枝が見つかったことから、随分昔から人々の暮らしの中で梅が利用されていたことがうかがえます。日本への渡来は遣隋使や遣唐使が持ち帰ったという説や、もつと古い時代に稲作などとともに伝来したとされるなど諸説があり、その時期はまだ確定されていないようです。ただ、日本に梅が渡来した頃は觀賞用ではなく、漢方や酸味の調味料として珍重されていたようです。しかし、早春の寒さに耐え、凛として咲く梅の花は、日本人の心情に叶つたらしく、瞬く間に觀賞用の花木として注目されるようになりました。人気の程は『万葉集』で詠われた「梅」に関する和歌が百十編を超えていることから推測されます。その後平安時代には、寝殿造りの庭園に梅の木を植えることが当時のステイタスと考えられるほどになりました。また貴族は梅の香りもこよなく愛し、衣に焚き染めてそ

### ●新商品紹介

## 沈香好文木「梅ひかえめ」ご進物用

「好文木」の伝統的な香りはそのままに、練をおさえた新しい時代のお線香として、ご愛用頂いております沈香好文木「梅ひかえめ」に、新たに「ご進物」にふさわしい桐箱入りになりました。是非ともご活用頂きますようお願いいたします。

## 下わやか檜の香りご進物用

百パーセント天然精油使用で、ご好評頂いております「さわやか檜の香り」でございますが、この度ご進物用として「短寸五束入り桐箱」を新発売させて頂くことになりました。愉に含まれるアルファピネンやボルネオールといった成分には、気分をリフレッシュさせるアルファ波を出現させる働きがあるといわれています。是非とも、森林のすがすがしい香りのお線香を先様にもお届け頂きますよう、ご案内いたします。

### ●話題

#### 新聞西人国記に掲載

関西で活躍する人物を紹介する

の社長として、伝統を守りながらも、時代に合ったお線香も作り出していることとする意気込みや、香り文化への姿勢など、中田社長の考えや、ひととなりを通して、現在の梅栄堂の姿が幅広く紹介されました。

テレビ「はなまるマーケット」で放映  
TBS系全国ネット、「はなまるマーケット」は、朝の人気番組。中でもクイズコーナーは暮らしのアイデアが満載。今回はユニークな香りのお線香として「残香飛」がクイズの問題に取り上げられました。

#### 伝統と新時代の香り

読売新聞朝刊の会社紹介記事「元氣印」では就任二年目十六代目の梅栄堂社長取材。合成香料を使うお線香メーカーが多い中、天然香料を使い続ける当社の姿勢を紹介。「いいものを出せば、

産経新聞の「新聞西人国記」では五日間に渡り梅栄堂の中田信浩社長をクローズアップ。新世代

お客様に認めてもらえることがわかった」と社長のことは結構だ。

NHKテレビ「かんさいニュース一番」関西の今」を伝える同番組では、「関西の今」を伝える同番組では、線香最新情報と題して、お盆を前にして忙しい梅栄堂の線香工場から生中継。製造工程を紹介すると共に、時代とともに変わっていくお線香事情を中田社長がインタビューに答えました。

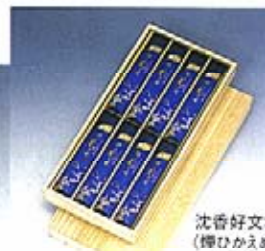
## 残香飛

マスコミで大反響

昨年二月に発売した新しいタイプのお線香「残香飛」は、発売直後からたいへんな反響を頂き、マスコミ各社からの取材も相次ぎました。おかげさまで話題が話題を呼び、「残香飛」は予想を上回る大ヒット商品となりました。



さわやか 檜の香り  
5,000円 (消費税別)



沈香好文木  
(梅ひかえめ)  
5,000円  
(消費税別)